

第 7 回 球磨川水系水防災意識社会再構築会議

今後の「取組方針」について

令和 2 年 6 月 1 5 日

今後の「取組方針」について

これまで進められてきた取組

【避難行動、水防活動に資する基盤等の整備】

- 避難時間の短縮や避難後の心身への負担を軽減するための量及び質の面に配慮した**避難所の整備**：A
- 浸水発生時に地区が孤立化する可能性を踏まえた**水防備蓄倉庫の量的整備**：B
- 洪水に対するリスクの高い箇所への**河川カメラや水位計の設置**や通行可能な避難路の状況を示す**避難誘導案内板や監視カメラの検討・整備**：C

【避難を判断するための情報伝達に関する事項】

- 現在導入している避難勧告等の周知方法における不足・課題を踏まえた**メールサービス**やIP端末など、防災無線以外の方法も取り入れた**多角的な情報周知手段の導入**：F

【平時からの住民等の防災意識醸成に関する取組】

- 住民が作成する**防災マップづくりの支援**：K
- 住民や観光客に配慮した防災や水害への意識を高める機会を充実させるための地域の防災に関する情報について、**広報誌やホームページ、庁舎掲示板、観光案内所、駅への掲載・提供**：L
- 若い世代を含む幅広い年齢層が参加できる**防災講習会や訓練等の実施**：O

【防災活動の着実な実施・連携体制の構築に関する事項】

- 水害に対しリスクの高い箇所について関係機関と**合同で河川巡視を実施**：Q
- 関係機関が連携した**防災会議や訓練、演習の実施及び水防に関わる事項の情報共有**：R
- どこに何の備えがあるかを共有し、迅速な水防活動を実施するための防災会議等の機会を活用した**水防資機材の備蓄状況や連絡体制の確認・共有**：U
- 避難勧告等の判断を意識した**気象・水文情報の見方や洪水に対するリスクの高い箇所や氾濫の特性など**球磨川流域の特徴を首長に認識してもらうためのトップセミナーの開催**：W

今後の「取組方針」について

今後も引き続き必要な取組

【水害リスクの周知に関する事項】

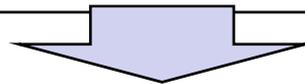
- 水害リスクや避難所の位置等を分かりやすく実感・記憶してもらうための、多言語にも対応した、想定浸水深や避難所等の情報をまちなかに設置する「まるごとまちごとハザードマップ」の取組：G
- 掲載情報の更新を容易にし、情報へのアクセス性を高めるための洪水ハザードマップの電子化及び想定し得る最大規模の降雨を踏まえた洪水浸水想定区域図をもとにした洪水ハザードマップの検討：H

【平時からの住民等の防災意識醸成に関する取組】

- 地区ごとの特性を踏まえた避難タイミングやその判断に必要な情報、連携体制等をパッケージで検討・確認し、住民が直接的に防災行動を意識するための、地区タイムラインの取組：N

【地域と連携した排水活動及び訓練、施設運用に関する取組】

- 市町村の枠を超えた広域避難計画に関する検討：X
- 排水ポンプ車の設置箇所等を具体的に示した排水計画の検討：Y



平成28年8月に「取組方針」を策定以降、流域一体となり、防災・減災の取組を実施
これまでの取組を踏まえ、次回幹事会を開催し、今後の「取組方針」について検討

(参考) 表-1 概ね5年で実施する取組 [別表]

取組が進捗している項目 今後も継続して取組を進める項目 昨年より更新 取組項目の再掲

資料 4-2

○：未着手，●：取組開始，-：対象なし，◎：実施予定

| 具体的な取組の柱 事項 | 主な取組内容 | 目標時期 | 取組機関 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|------------|------|-----|-----|----|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|---------|---------|---|---|
| | | | 八代市 | 人吉市 | 芦北町 | 錦町 | あさぎり町 | 多良木町 | 湯前町 | 水上村 | 相良村 | 五木村 | 山江村 | 球磨村 | 地域住民 | 熊本県 | 熊本地方気象台 | 九州地方整備局 | | |
| 1. ハード対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 洪水を安全に流すためのハード対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・洪水を安全に流すための堤防整備や河道掘削等を実施 | ・堤防整備、河道掘削等 | 継続実施 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ● | - | ● | |
| 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・避難時間の短縮や避難後の心身の負担を軽減するための量及び質の面に配慮した避難所の整備：A | ・各市町村で整備している避難所について現状を確認し、拡充の必要等を踏まえ検討する。 | ～平成32年度 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | - | - | - | - | - | |
| ・浸水発生時に地区が孤立化する可能性を踏まえた水防備蓄倉庫の量的整備：B | ・各市町村で整備している水防倉庫について現状を確認し、拡充の必要等を踏まえ検討する。 | ～平成32年度 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ | ● | - | - | - | - | - | - | |
| ・洪水に対するリスクの高い箇所への河川カメラや水位計の設置や通行可能な避難路の状況を示す避難誘導案内板や監視カメラの検討・整備：C | ・避難誘導案内板やCCTVカメラ等の整備を適宜行うとともに、ホームページ等で提供している情報の拡充を図る。 | 継続実施 | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ○ | ● | - | ● | - | - | ● | ● | |
| ・防災拠点や避難路、資材ヤード等の検討・整備：D | ・防災拠点や避難路、資材ヤード等の設置について検討・整備する。 | ～平成32年度 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ● | R1 | - | - | ○ | |
| 2. ソフト対策 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ①住民一人一人が迅速かつ確かな避難行動を実施するための、地域毎の氾濫特性に基づく水害リスクの周知による水防災意識の啓発・醸成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 避難を判断するための情報伝達に関する事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・球磨川流域に関係する水位・雨量情報、ダム情報、河川カメラ情報、洪水予報や避難勧告の発令状況など、避難に必要な情報をワンストップで入手できるポータルサイトの関係機関協働による作成：E | ・流域連携の取組の一つとして球磨川独自の防災に関するポータルサイトの作成について検討し、作成する。 【補足】九州地方整備局が作成して共有する。 | 平成28年度から実施 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ・現在導入している避難勧告等の周知方法における不足・課題を踏まえたメールサービスやIP端末など、防災無線以外の方法も取り入れた多角的な情報周知手段の導入：F | ・市町村による災害に係る情報提供の方法について検討し、適切な情報周知手段を導入する。 | ～平成32年度 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 水害リスクの周知に関する事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・水害リスクや避難所の位置等を分かりやすく実感・記憶してもらうための、多言語にも対応した、想定浸水深や避難所等の情報をまちなかに設置する「まるとまちごとハザードマップ」の取組：G | ・避難計画等の見直しを踏まえ、案内表示板の整備等を検討する。 | ～平成32年度 | ○ | ● | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ・掲載情報の更新を容易にし、情報へのアクセス性を高めるための洪水ハザードマップの電子化及び想定し得る最大規模の降雨を踏まえた洪水浸水想定区域図をもとにした洪水ハザードマップの検討：H | ・ハザードマップの見直しに合わせたハザードマップの電子化を行う。 ・想定最大規模も含めた構造浸水想定区域図をもとにした洪水ハザードマップについて検討する。 | 平成28年度から実施 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ・想定し得る最大規模の降雨を踏まえた洪水浸水想定区域図、浸水シミュレーション、家屋倒壊等氾濫想定区域の検討・公表：I | ・想定最大規模も含めた洪水浸水想定区域図等を検討・公表する。 | 平成28年度から実施 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ● | - | ● | |
| ・住民も参画した合同河川巡視等の合同点検の実施：J | ・出水期前に関係機関参加のもとに水防団等の住民も参画した合同巡視を実施する。 | 平成28年度から実施 | ○ | ○ | ● | ◎ | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 平時からの住民等の防災意識醸成に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・住民が作成する防災マップづくりの支援：K | ・住民が自ら点検・確認しながら避難場所や経路など、防災に必要な情報を掲載した地域独自の防災マップづくりのための支援を行う。 | 継続実施 | ○ | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

(参考) 表-1 概ね5年で実施する取組【別表】

取組が進捗している項目 今後も継続して取組を進める項目 昨年より更新 取組項目の再掲

○：未着手，●：取組開始，-：対象なし，◎：実施予定

| 具体的な取組の柱 | 事項 | 主な取組内容 | 目標時期 | 取組機関 | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|------------|------|-----|-----|-----|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|---------|
| | | | | 八代市 | 人吉市 | 芦北町 | 錦町 | あさぎり町 | 多良木町 | 湯前町 | 水上村 | 相良村 | 五木村 | 山江村 | 球磨村 | 地域住民 | 熊本県 | 熊本地方気象台 |
| 具体的な取組項目 | ・住民や観光客に配慮した防災や水害への意識を高める機会を充実させるための地域の防災に関する情報について、広報誌やホームページ、庁舎掲示板、観光案内所等において掲載提供：L | ・地域の防災に関する情報を広報誌やホームページ、庁舎掲示板や観光案内所等において掲載 | 平成28年度から実施 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| | ・洪水浸水想定区域図等の水害リスクや防災情報に関して、その意味や活用方法を周知するための、地域住民や学校、病院、要配慮者施設、企業など様々な組織を対象とした出前講座や水防防災教育等の実施：M | ・国や県が行う出前講座等において、水防防災情報の普及・啓発を図る。 | 平成28年度から実施 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ● | ● | - | ● | |
| | ・地区ごとの特性を踏まえた避難タイミングやその判断に必要な情報、連携体制等をパッケージで検討・確認し、住民が直接的に防災行動を意識するための、地区タイムラインの取組：N | ・タイムラインの取組を流域の市町村において順次検討を進める。 | 平成28年度から実施 | ● | ◎R2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎R1 | ● | ● | - | ● |
| | ・若い世代を含む幅広い年齢層が参加できる防災講習会や訓練等の実施：O | ・幅広い年齢層の住民が参加できるような防災講習会や訓練等を企画し開催する。 | 平成29年度から実施 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎R1 | ● | ○ | - | ● |
| ②防災に携わる関係者が顔を合わせる検討の場の創出・活用による、防災活動の着実な実施・連携体制の構築 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 防災活動の着実な実施・連携体制の構築に関する事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・重大水害が発生するおそれがある場合に情報伝達（ホットライン）を実施：P | ・重大水害が発生するおそれがある場合に、八代河川国道事務所長より各首長へ、球磨川の状況等についてホットラインを行う。 | 継続実施 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | ● |
| ・水害に対しリスクの高い箇所について関係機関と合同で河川巡視を実施：Q | ・水害に対しリスクの高い箇所について、関係機関の防災担当者や河川管理者が合同で河川巡視を実施する。 | 継続実施 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ● | ● | - | ● | - | ● |
| ・関係機関が連携した防災会議や訓練、演習の実施及び水防に関する事項の情報共有：R | ・関係機関が連携して防災会議や訓練、演習を実施し、併せて水防に関する事項の情報共有を行う。 | 継続実施 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | - | ● | ● | ● |
| ・球磨川流域に関する水位・雨量情報、ダム情報、河川カメラ情報、洪水予報や避難勧告の発令状況など、避難に必要な情報をワンストップで入手できるポータルサイトの関係機関協働による作成【E再掲】 | ・流域連携の取組の一つとして球磨川独自の防災に関するポータルサイトの作成について検討し、作成する。 【補足】九州地方整備局が作成して共有する。 | 平成28年度から実施 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | ◎R2 | - | ◎R2 |
| ・流域の防災関係者それぞれに必要な情報を網羅し、迅速に意思疎通し災害にあたるための「球磨川洪水対応共有マップ（仮称）」の作成・運用：S | ・災害時に有効活用できる情報を網羅した「球磨川洪水対応共有マップ（仮称）」について検討し、作成・運用する。 | ～平成32年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ |
| ・防災対応を目的とした気象・河川情報の収集方法や当該情報に基づく避難勧告等の発令判断、関係者間の防災対応に係る役割分担の明確化などを検討し、作成及び検証するタイムラインの取組：T | ・タイムラインの取組を流域の市町村において順次進める。 | 継続実施 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎R1 | ● | ● | ● | ● | ● |
| ・どこに何の備えがあるかを共有し、迅速な水防活動を実施するための防災会議等の機会を活用した水防資機材の備蓄状況や連絡体制の確認・共有：U | ・出水期前に資機材の確認と広域的利用体制の確認を引き続き行う。 | 平成28年度から実施 | ◎R2 | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎R1 | ● | - | ● | - | ● |
| ・水防活動に関する専門的な知識の習得・維持のための訓練の実施：V | ・出水期前に水防演習等を実施する。 | 平成29年度から実施 | ◎R2 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ● |
| ・住民も参画した合同河川巡視等の合同点検の実施【J再掲】 | ・出水期前に関係機関参加のもとに水防団等の住民も参画した合同巡視を実施する。 | 平成28年度から実施 | ○ | ○ | ● | ◎R2 | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ◎R1 | ○ | ○ | - | ○ | ● |

(参考) 表-1 概ね5年で実施する取組【別表】

取組が進捗している項目 今後も継続して取組を進める項目 昨年より更新 取組項目の再掲

○：未着手，●：取組開始，-：対象なし，◎：実施予定

| 具体的な取組の柱 | 事項 | 主な取組内容 | 目標時期 | 取組機関 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|------------|---------|---------|-----|---------|-------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|---------|---------|
| | | | | 八代市 | 人吉市 | 芦北町 | 錦町 | あさぎり町 | 多良木町 | 湯前町 | 水上村 | 相良村 | 五木村 | 山江村 | 球磨村 | 地域住民 | 熊本県 | 熊本地方気象台 | 九州地方整備局 |
| ② | 具体的な取組項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・避難勧告等の判断を意識した気象・水文情報の見方や洪水に対するリスクの高い箇所や氾濫特性など球磨川流域の特徴を首長に認識してもらうためのトップセミナーの開催：W | ・市長村長や防災担当者を対象とした水災害に関するトップセミナーを開催する。 | 継続実施 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | - | - | ● | ● | |
| | ・市町村の枠を越えた広域避難計画に関する検討：X | ・ハザードマップの見直し等を踏まえ、必要に応じて広域避難を考慮した避難計画に関する検討を行う。 | ～平成32年度 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ③洪水氾濫時における人命・社会経済への被害を最小化するための地域と連携した備えと施設・体制の整備 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域と連携した排水活動及び訓練、施設運用に関する取組 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・排水ポンプ車の設置箇所等を具体的に示した排水計画の検討：Y | ・洪水浸水想定区域図に基づく排水計画を検討する。 | 平成29年度から実施 | ○ | ○ | - | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - | ○ | - | ● R1 |
| | ・氾濫発生時にも継続的な災害対応を実施するための防災活動の拠点となる庁舎等の浸水対策の実施：Z | ・現状を確認し、必要に応じて浸水対策に関する検討を行う。 | ～平成32年度 | ◎ R2 | ◎ R2 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | - | ○ | - | ● | |
| | ・地区ごとの特性を踏まえた避難タイミングやその判断に必要な情報、連携体制等をパッケージで検討・確認し、住民が直接的に防災行動を意識するための地区タイムラインの取組【N再掲】 | ・タイムラインの取組を流域の市町村において順次進める。 | 平成28年度から実施 | ● | ◎ R2 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● R1 |
| | ・住民も参画した合同河川巡視等の合同点検の実施【J再掲】 | ・出水期前に関係機関参加のもとに水防団等の住民も参画した合同巡視を実施する。 | 平成28年度から実施 | ○ | ○ | ● | ◎ R2 | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ● R1 |
| | ・避難時間の短縮や避難後の心身への負担を軽減するための量及び質の面に配慮した避難所の整備【A再掲】 | ・各市町村で整備している避難所について現状を確認し、拡充の必要等を踏まえ検討する。 | ～平成32年度 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - |
| | ・浸水発生時に地区が孤立化する可能性を踏まえた水防備蓄倉庫の量的整備【B再掲】 | ・各市町村で整備している水防倉庫について現状を確認し、拡充の必要等を踏まえ検討する。 | ～平成32年度 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | - |